

## ●● 特集

### 毎日の積み重ね

### 始業時に意識すること

## FRONT ESSAY FRONT ESSAY

### 病棟での医療安全への取り組み

#### ～みんなが主役：標語の作成と唱和～

今回は、2階病棟で取り組んでいる標語について紹介させてもらいたいと思います。

標語って何？と聞かれてピンとこない方はいないと思いますし、小学生の頃に宿題などで出されて、実際に考えたことがあるという方が多いかと思います。

2階病棟では昨年より、毎日の朝礼の締めくくりとして、“病棟の標語”を唱和するようにしています。この標語は、毎月更新されます。では一体誰が考えるのでしょうか。それは、課長からの指名により決定していきます。指名されたスタッフはドキドキですが、次月に間に合うように作成してくれています。

そもそも、なぜ2階病棟でこのような取り組みが成されるようになったのでしょうか。それは、少しの確認で防げたのではないかといったミスが、重なったからだということです。

ここで、“標語”という言葉調べてみました。“標語とは、主張・信条や行動の目標、指示内容などをわかりやすく簡潔に言い表した語句”とありました。この、わかりやすく・簡潔にというのがポイントになり

2014 No, 1

島田病院医療安全管理委員会が送る  
患者さまと職員の安全に関するニュース

## ●●

### FRONT ESSAY

#### 病棟での医療安全への取り組み

##### ～みんなが主役：標語の作成と唱和～

ます。実際に標語を考える際には、短い語句の中に、伝えたいことを伝えるように盛り込むには、どのような言葉を選ぶかというところを悩みます。悩んでいる間には、毎日の病棟や業務風景が頭を巡ります。私は、これがとても大事なのではないかと思っています。毎月の病棟の標語は、考えてくれているスタッフの色を出しながら、私たちの行動目標を表してくれています。自部署の日常を思いながら、伝えたいメッセージを、わかりやすく・簡潔に標語にしていく作業を、是非他部署の皆様にもおすすめしたいと思います。

(一例を紹介します。)



2階病棟：看護部 村口

### ハイリスク薬を明確化し管理を開始

医薬品の中には「ハイリスク薬」と呼ばれる一群があります。文字通り、リスクの高い薬の総称です。「ハイリスク薬」の定義は医療機関や企業によって異なりますが、特に安全管理が必要な医薬品（特定薬剤）を一般的に「ハイリスク薬」と呼んでいます。これらの医薬品は投与時に特に注意が必要とされ、難病に対処するための医薬品や、効き目が非常に強く副作用の危険性が高い医薬品などが含まれています。

これらを用いる際には、それぞれに特に注意すべき事項があります。例えば、すい臓ホルモン剤であれば、患者に対する処方内容の確認・低血糖及び低血糖状態出現時の対処法の指導・ブドウ糖携帯の指導など。このようにハイリスク薬を用いる場合、十分な情報と知識に基づいて、患者の薬学的管理を行うことが必要になります。また、患者の理解を得るために、薬剤師を中心に求めに応じて繰り返し効果・副作用・服薬手順などの薬剤情報を提供しなければなりません。さらに指導内容などを正確に記録し、対象となる処方箋以外の医薬品や一般医薬品の服用にも気を配る必要があります。

島田病院では、「ハイリスク薬」と位置付け、安全管理を行う薬品は以下の一覧です。(写真左)

一目でわかるように薬剤師が対象薬品に色別札を付けています。(写真右：救急カート内)



感染対策委員会：看護部 山本

### DVT予防の対象者が拡大！！

手術後は麻酔や手術手技に伴い循環器、呼吸器、腎・泌尿器、消化器合併症など、様々な合併症を引き起こす可能性があり、これらの合併症を早期に発見できるように細やかな観察・ケアが必要とされています。これらに加え整形外科領域では深部静脈血栓症（以下DVT）の予防が重要とされています。周術期におけるDVTの発症は、文献によって幅はありますが、人工股関節全置換術（THR）および人工膝関節全置換術（TKR）術後は20～71%と報告されており、術前からのリスクアセスメントとリスクに即した予防策を講じる必要があります。

当院ではこれまでもDVT予防のための指針を作成し実施していましたが、予防具や検査の整備、電子カルテの導入などが進み、またケアを行う看護師やセラピストの知識も充実してきました。これにより従来の指針を見直し、島田病院で行う主な手術別に独自の指針を作成し、電子カルテでのリスクアセスメントの実施と予防策の指示、リスクに伴う検査の追加などが一連の流れでできるように改定されました。その結果、入院・手術を行う全患者を対象としたリスクアセスメント・予防の実施が可能となりました。



外来・手術室：看護部 徳田

プランナー：看護部 山本

次号は 5月です！

発行人 医療安全管理委員会 編集担当 森下 幸子

発行所 医療法人永広会島田病院内